



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(4)

【概要】

令和5年9月22日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授が理工学科の学部生、先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らとともに本年度4回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行っています。

令和5年度第4回は9月22日(金)に理工学部化学部門 長田 聡史 教授が先進健康科学研究科(理工系)の大学院生および理工学部理工学科生命化学コースの学部生とともに、「これで君もすし職人」と題して、人エイクラを作成する理科実験を行いました。

子どもたちの夏休みが明けた9月の実施で過去最大の参加者数でした。今回は実験を楽しみにしてくれている子どもたちにアルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムの化学反応を利用して人エイクラを作る実験を用意しました。大学院生の説明に従って、子どもたちは独創性のある色とりどりの作品を作り上げていました。できた作品を比べ合う子どもたちの賑やかな声の中、なぜそれができるのかについての興味が尽きず、熱心に質問してくる子どももいました。最後に、pHによって色が変化する人工カプセルを作成し、それを酸性とアルカリ性の溶液に投入してカプセルの色が変化する様子を観察しました。そして、この実験に関連する内容が理科の教科書のどこかに記載されているかもしれないと学習を促して、実験を終了しました。帰り際に、小学生の一人から「また来てね」と言われ、やりがいを感じた一日となりました。



「理科実験教室」の様子